

結碧沖繩

第 64 号

編集・発行



社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173 (代)

FAX 098-882-5688

電子メールアドレス :o.fukusi@okinawa-j.jp ホームページ :http://www.okinawa-j.jp/



あけぼの学園就労継続支援B型事業の様子（4ページに紹介文掲載）



新年度あいさつ

理事長 はなしろう
花城 可長 かちやう

昨年度からスタートした第2期経営計画は、各施設とも目標達成に向けて取り組んでいるところであり、順調に成果を上げつつあります。これもひとえに皆様方のご理解とご協力のおかげであり感謝申し上げます。

今年度は、ハード面では昨年12月に着工した「よみたん救護園」の全面改築をはじめ、今年着工する「うるま婦人寮」の改築と「あけぼの学園グループホーム」の新設があります。ソフト面では、キャリアパスの導入、人事考課制度の導入に向けての取り組み、中核的職員の研修強化等を予定しています。

さて、近年、社会福祉法人に対しては、さまざまな場面で内部留保金の問題、地域への貢献、法人の大規模化等について厳しい指摘がなされています。一方、国においては、毎年膨らんでいく社会保障関係費を見越して在宅医療・介護の連携等の地域包括ケアシステム（2025年モデル）の構築に向けて、福祉に係る制度改革のスピードを相当早めています。

当事業団もこのような変革に対応できるような法人の内部体制を整えていく必要があります。今年度は中核的職員を中心に「法人の在り方検討委員会」を立ち上げて、今後の法人の在り方について検討するとともに、これからの経営戦略を立てていく考えです。

あわせて、これまで以上に全職員が丸と なって入所者の皆様へのサービスの向上はもとより、地域の福祉ニーズにも応えられるような施設づくりに取り組んでいく所存です。

平成26年度 沖縄県社会福祉事業団の主な事業計画

I 利用者に対する姿勢

(1) 人権の尊重

①各施設の管理職は経営理念等を深く理解し、全職員が同じ価値観・方向性を持ち業務に就けるよう職務会・職場内研修・個別ヒヤリング等の機会を積極的に活用し経営理念等の周知を図る。

②利用者及び家族等の自己決定に関する意見を傾聴すると共に、事業者としての説明責任を果たす。

③重大事故が発生した場合は、速やかに利用者家族へ報告を行うと共に、事故に至った経緯やその改善策等について確実に記録をとる。

(2) サービスの質の向上

①各施設は、手順書等の作成又は見直しを行い、手順書に基づいた業務を遂行する。

②沖縄療育園において、第三者評価を受審する。

(3) 生活・ケア環境の向上

①よみたん救護園は、全面改築整備事業を年度内に終了する。

②うるま婦人寮は、単身棟の全面改築に着手する。

II 社会に対する姿勢

(1) 説明責任の徹底

①事務局は、ホームページを刷新し、法人の事業活動、提供するサービス内容、財務状況、公益的取組の実施状況について広く社会や地域に発信する。

(2) 行政・社会福祉協議会等との連携・協力の推進

①各厚生園では、圏域の地域ケア会議に参画できる取組を行う。

②障害者施設では、圏域の自立支援協議会に参画できる取組を行う。

III 人材に対する姿勢

(1) 職員処遇の向上

①有給取得、時間外勤務や夜勤回数等の実態を正確に把握し、時間外勤務・夜勤回数の削減、有給取得の向上に向けた取組を強化する。

(2) 働きがいのある職場の実現

①円滑なコミュニケーションが取れる職場とするため、各施設に沿った具体的な改善策を検討し対策を実現する。

IV マネジメントに対する姿勢

(1) 組織統治の確立

①事務局は、全施設の内部監査を実施

する。26年度は「介護事故防止」に着眼した監査を行い事故の発生減に繋げる。

(2) 経営管理者の役割の遂行

①事務局及び各施設長は、研修・教育等の充実を図り次世代の管理者を育成する。

②事務局及び各施設の中核的な職員を対象とする研修を継続すると共に、

研修終了後も同職員で構成する「法人の在り方検討委員会」を立ち上げ、今後の法人の在り方について検討する。検討結果は報告書を作成し理事長へ報告すると共に、法人の実践活動発表会で発表する。

③事務局長及び施設長は、課題解決に向けて責任を持ち対応する姿勢を職員へ発信する。

平成26年度 資金収支予算書(単位:千円)

| 勘定科目 | | 法人全体 | | |
|-----------|--------------|-----------------|-----------------|-----------|
| | | 当年度 予算額 ① | 前年度 予算額 ② | 増減 ①-② |
| 大区分 | | | | |
| 事業活動収支 | 収入 | 4,202,859 | 4,038,873 | 163,986 |
| | 支出 | 4,051,859 | 3,676,652 | 375,207 |
| | 事業活動資金収支差額 | 151,000 | 362,221 | △ 211,221 |
| 施設整備等収支 | 収入 | 1,119,256 | 122,450 | 996,806 |
| | 支出 | 1,887,984 | 343,704 | 1,544,280 |
| | 施設整備等資金収支差額 | △ 768,728 | △ 221,254 | △ 547,474 |
| その他の活動収支 | 収入 | 3,268,248 | 738,491 | 2,529,757 |
| | 支出 | 2,656,542 | 987,691 | 1,668,851 |
| | その他の活動資金収支差額 | 659,706 | △ 249,200 | 908,906 |
| 予備費 | | 48,000 | | 48,000 |
| 当期資金収支差額 | | △ 6,022 | △ 108,233 | 102,211 |
| 前期末支払資金残高 | | 640,047 | 748,280 | △ 108,233 |
| 当期末支払資金残高 | | 634,025 | 640,047 | △ 6,022 |

実践活動発表会・特別講演を終えて

平成26年1月24日那覇市内にあるホテルロイヤルオリオンにて、当事業団施設における、利用者支援や運営管理等について、日頃の実践成果を理解すると共に、職員の創意工夫力を高める事を目的とした実践活動発表会（事業団事務局主催）を開催いたしました。会場には役職員併せて152名が参加しました。

特別講演では、当事業団中核的職員研修の講師であります本間秀司氏（ウエルフェア・J・ユナイテッド株式会社代表取締役）を招き「運営から経営へ新しい時代に求められる社会福祉法人とは」と題して、ご講演頂きました。その中で、社会保障改革に伴い、当事業団が県民の皆様様に安定した医療・福祉・介護サービス提供ができるよう戦略モデルを立案・実施する必要性についてご講演頂きました。



た。各施設から多くの職員や役員が一堂に会する中で、当事業団の方向性を共有できた事は大変貴重で有意義な時間となりました。

実践活動発表会では、次のとおり発表が行われました。

- ①「繰り返される無断外出への取組について」
- 障害者支援施設 北嶺学園
- ②「誤嚥予防について」口腔ケアの取組」
- 救護施設 よみたん救護園
- ③「担当利用者との関わり方」
- 婦人保護施設 うるま婦人寮
- ④「職場風土改善の取組について」
- 養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園

発表後には、質疑応答が活発に行われ、他施設の実践成果や今後の課題等を共有する事ができました。

また、実践活動発表会後は、施設職員による司会進行や余興で、和やかな雰囲気の中、懇親会も行われました。

実践活動発表を通しての感想



救護施設 よみたん救護園
介護員 平識 咲子

平成25年度事業団実践活動発表会では、私達よみたん救護園を含む4施設が日頃の実践活動について発表しました。

発表当日は緊張しましたが、無事発表を終えほっとしているところです。

当園では「誤嚥性肺炎の予防・口腔ケアの取り組み」をテーマにあげ、取り組み過程の中では、業務分担や改善も要し、とてもエネルギーのいるものでした。しかし、誤嚥性肺炎での入院者が徐々に減少していること等、成果が実感でき、職員も取り組みの喜びを感じています。

今後取り組みを継続し、利用者の皆さんへの支援を行っていききたいと思っております。

法人内部監査を終えて

事務局企画課長 平良 里子

平成25年度よりスタートした第2期経営計画において、法人内部監査を毎年全施設実施することとしました。これまでは、1施設隔年で実施していた内部監査を毎年実施するに当たり、25年度は、利

用者支援に関する業務が適正に行われているか、関係記録を基に確認しました。

具体的には、個別支援計画書の作成や見直しが定期的に行われているか、また計画書に基づいた記録がとられているかということに絞りました。

個別支援計画書は、利用者支援の基礎となりますので、一人ひとりの利用者にかかわる支援内容を各職種全体で周知していなければなりません。しかし、個別支援計画書の作成や見直しは行われてはいますが、支援の記録としては、食事や排泄及び健康チェック等定型業務の内容が主になっている施設も見られました。

利用者への支援の内容を見直す際には、その根拠となる記録が重要になります。利用者のADLの状況はもちろんですが、利用者が希望する支援内容、さらにはリスクマネジメントの視点からの記録も必要になります。従って、支援の際に職員がどのように状況を判断し、支援を行っているかということも記録によって確認できるように内容に改善を図る必要性を感じました。

全施設の内部監査を終えて、記録がどういう意味を持つのか、何を重点に記録をとるのかを、法人として課題を抽出し、より良い利用者支援に繋げる取り組みを行っていききたいと思います。



地域でユイマールへ支え合い

つながる輪 手作り野菜をどうぞ

婦人保護施設 うるま婦人寮

当寮は婦人保護施設であり、入所者の支援と併せて、退所者の来所相談及び電話相談等のアフターケアを行っています。退所された方が地域の中で自立生活を送るためには、子どもの養育・学校との関わり・就労が必要な面において、安心した環境が重要です。このような環境に関する相談にも柔軟な対応ができるよう、当寮は日頃から、地域の関係機関の方々と交流を図り、協力体制の構築が課題となっています。

これまでも、役場主催の河川愛護デーに行われる河川周辺の清掃への参加や、施設内で収穫した野菜を社会福祉協議会等へ届け、地域との交流を行ってきました。

さらに、25年度は地域の個別支援会議の参加や、日頃の入所者支援をきっかけに、NGO団体や保育園、ファミリースポーツセンター等とのネットワークを広げることができました。そのネットワークを大切にしていきたいとの思いを込めて、当寮で実った無農薬栽培のブロッコリー・

にんじん・玉ねぎをお届けすると共に、尚一層の連携をお願いしました。入所者の自立支援は、施設だけでは限界があり、そのためにも地域・関係機関との連携の輪を広げることができるよう職員一同、尚一層努力して行きたいと思っております。



地域でのユイマール



救護施設 よみたん救護園
管理課長 名嘉 克文

当園では、平成24年度より毎年9月に地域の読谷村JAゆんた市場において、当園作業支援の紹介及び地域との交流を目的として、小作品展示会を開催しております。

当園と地域との交流は、読谷村社協主催行事である「福祉運動会」「福祉納涼祭り」等に参加し交流を図っているところです。さらには、月1回の社会奉仕作業において、地域道路の清掃、草刈り作業等実施しています。しかし、地域へ園内作業支援の作品等を展示する機会は、毎年参加の「読谷祭り」にて展示・販売の



みであったため、地域との交流及び園内作業支援を広報する等目的に、24年度より小作品展示会をJAゆんた市場協力の下開催しております。

表紙の作品紹介

出来映えは大丈夫かな・・・!

あけぼの学園 就労継続支援B型事業
就労支援員 下地 隆博

就労活動の農作業では島唐辛子・季節の野菜づくりが主産物です。土づくり、植え付け前の敷き草・マルチ張り作業から始まり、農作業メンバで生育状況を観察しながら、3か月で収穫の時期を迎えました。また、利用者の作業能力を高める目的から、ピーズアートを取り入れて、利用者の集中力アップや手先の機能力アップを図ったところ、農作業活動にも一段と身が入り、植物を育てる楽しみが広がっています。



生活リハビリテーションの向上を目指して



特別養護老人ホーム
宮古厚生園
理学療法士 平良 智也

宮古厚生園に理学療法士として採用され、早1年が過ぎました。理学療法士の仲間には「特養施設でリハビリは必要なのか？」と言われたりしますが、入所当初は歩行が出来なかつた利用者が歩行器を使用して歩く事が出来たり、移乗困難だった利用者が一人で移乗出来る様になったりと生活に必要な動作をリハビリで再修得した利用者もいます。

それだけでなく、集団リハビリでは利用者同士でのコミュニケーションを図り、談笑することで身体的・精神的にもプラスになる一面があると感じています。しかし、嚥下困難な利用者の口腔マッ



サージや職員の腰痛予防に対する福祉用具の活用など理学療法士としての取り組みの課題はまだまだあります。

今後も利用者の普段の日常生活の中で生かせるような身体機能の回復を促す生活リハビリテーションを心掛け、利用者に安心、安全で快適な施設生活(QOL)の向上を目指し努力して行きたいと思えます。

第1回合同排泄委員会を終えて



養護・特別養護老人ホーム
具志川厚生園
介護員 喜屋武 雄樹

3月7日沖縄県総合福祉センターにて当法人の合同排泄委員会に参加しました。

パワーポイントを使い「各施設で取り組んでいること」・「課題」・「次年度の目標等」を10分程発表したのち質疑応答の時間が設けられ疑問に思った事や施設での問題解決方法について質問が多数ありました。

TENAアドバイザー(ユニ・チャームメンリツケ株式会社)からは、各施設における過去5年間のオムツ使用状況の報告があり、ほとんどの施設が24年度から25年度にかけて使用量が増加している事を知りました。

具志川厚生園においても24年度頃から利用者様の身体的機能の低下に伴いTENAのランク・種類などが大きく変化し発注数量が増加傾向にあるため、各施設の使用状況も参考に改善していきたいと強

く感じました。

グループディスカッションでは、各施設の排泄委員・看護師・栄養士と共にグループ毎に「テーマ」を決め「実際に取り組めること」「取り組んだ場合の半年後の改善されているイメージ(利用者・スタッフ等の状況)」「1年後のイメージ(利用者・スタッフ等のあるべき姿)」を話し合いました。

当園の、排泄委員会には、支援課長・介護員・ケアマネ・相談員が参加しており、今後「看護師」「栄養士」「訓練士」に積極的に会議に参加してもらい緩下剤に代わる排便サポート等ができるようにしたいと強く感じました。



施設長 リレーエッセイ

大菊の三本盆用



養護・特別養護老人ホーム
具志川厚生園
園長 知花 進

これまで趣味と言える事を継続して行ってきたことがあるだろうか考えたとき唯一言えることが宮古島在任中の磯釣りと、北嶺学園で園芸講師の諸見里先生に指導を受け取り組んだ大菊の三本盆用仕立ての寂しいものではない。仕事やここ数年目標として取り組んでいる事があり、安らぎ・癒しへ繋げる趣味については忘れてしまっている。釣りは磯釣りで「冬場のチヌ」「夏場のカーエ」釣りを年間をとおして楽しんで来た。しかし老眼で夜の仕掛けが制作出来なくなつてからは自然と遠ざかつていってしまった。

また、もう一つの趣味であった大菊の三本盆用は平成18年よみたん救護園時代まで取り組んでいたが、毎年の苗を確保することが出来ず中断したままである。今でも沖縄県菊愛好会主催の「沖縄菊展覧会」には見学に出かけている。菊花の使用価値はよく、祭壇に供える物とのイメージが強いが決してそうではなく、花の香りや大菊の持つ花の力強さは花の女王「蘭 カトレア」に負けない魅力があると思う。苗から挿し木で育て、成長に併せて鉢上げを繰り返して、一定時期にはビーナインの薬品で茎の節を締め三本仕立ての段階へと行程を進めていき、開花60日前からは電照管理と手間暇がかかります。又夏場の成長が著しい時期、台風シーズンが到来し、避難対策を講ずる必要がある。油断すると葉が菌や病気に冒され枯れてしまいます。

苦勞が多い分咲き誇つた菊花を見た時の嬉しさは何にも代え難い。時間を見つけ再度挑戦していききたいと思います。

趣味と安らぎのある、ライフサイクルを取り戻す夢を求めて。



職員の語り

三線に魅せられて

医療型障害児入所施設 沖縄療育園



介護員 酒井 さわ子

8年前に来沖してから三線を習い始めました。三線を通してできた仲間と、舞踊の女性地謡に参加させてもらっていますが、とても難しく勉強の毎日です。園の利用者にも聴いてもらうのですが、間違えるとすぐわかつてしまい、「練習して、もっと上手くなりますね」と話すと、笑つて許してくれます。園の利用者がもう一人の師匠になりました。忙しい業務の中、こんなひと時に癒されています。



釣りバカ日記

障害者支援施設 北嶺学園



職業指導員 金城 篤史

「ヒット！」大物を夢見て大海原に釣り竿をのぼす。毎回釣れるわけではないですが、釣れた時の感動はくせになります。そんな出会いは一瞬。プカプカと海に漂っていたウキが一変、スパーン！と海中に吸い込まれた！グ

グッと釣竿から手元に伝う強引な引き！夢中でやりあう攻防戦、やつとの思いで魚影を網に取り込みゲツト！この快感は何度経験しても飽きないものですね。



趣味が高じて

八重山厚生園指定居宅介護支援事業所



介護支援専門員 野々村 恵美

平成7年にスクーバダイビングのライセンスを取得し、国内や海外の海を潜つてきましたが、八重山の海の素晴らしさに魅了され、平成17年に大阪から石垣島に移住してきました。



自然は優しくもあり、時に厳しくもありますので、自らの安全管理に気を付けて、今後も八重山の自然と共に暮らしていきたいと思

退職者の声



婦人保護施設
うるま婦人寮
寮長 譜久山 路子

昭和51年8月2日採用となり、沖縄療育園、北嶺学園、うるま婦人寮、具志川厚生園で勤務。職種も看護助手、指導員、事務員、課長、施設長等に従事し37年が経過しました。

初めての転勤先は、北嶺学園。小さな運動場で開催された第1回運動会、私は利用者全員が参加するフォークダンス担当メンバーになり、皆で踊る曲目を探す為、サークルに通った事も楽しい思い出です。又、久しぶりに会っても私の名前を呼ぶ利用者の方がいる事にも感謝、感激です。最近では、うるま婦人寮の母子棟改築に関われた事も貴重な経験でした。仕事のことで、悩んだ時もありましたが、私が定年まで仕事を続ける事が出来たのは今まで支えて頂いた皆様方のおかげです。ありがとうございます。最後に事業団の更なる発展と皆様方の健康とご活躍を祈念申し上げます。



障害者支援施設
都屋の里
介護員 島袋 國浩

昭和61年4月1日に沖縄療育園に採用され、早28年になりました。当初、食事介助、オムツ交換等の初めての介護業務に戸惑い自信を失っていた事が昨日の様に思い出されます。

今、回顧すると利用者、利用者家族、上司、同僚等からの叱咤激励を受けながら、沖縄療育園をスタートによりみたん救護園、いしみね救護園、具志川厚生園で勤め、最後は都屋の里で退職することとなりましたが、仕事を続ける中でいろいろな出来事があり、決して平坦な道ではありませんでした。そのような中で、家族及び各施設の上司、同僚に恵まれ、心暖まる御厚意を受け、今日に至っていると強く感じました。退職に当たり心より感謝申し上げます。と共に事業団がますます発展することを祈りつつ、微力ではありますがありますが、これからは地域社会に貢献が出来る様に研鑽したいと思っております。



養護・特別養護老人ホーム
名護厚生園
介助員 酒井 健司

私は昭和56年に事業団に入社し、よみたん救護園から現在の名護厚生園で30年になりました。このたびの退職にあたり、ここ数日はこれまでの30年間を振り返っております。

今から12年前にも名護勤務を命じられた頃、娘が那覇市の高校に通う事になりました。朝の送りを沖縄市から那覇、名護の往復を3年間続けてきました。仕事を終え家に帰るころには疲れだけが残り、通勤が嫌になるほど辛かったことを思い出しました。その娘から最近「お父さん、お疲れ様。今まで言えなかったけど、高校生の時は本当にありがとう。」と言われたとき、すぐに良い思い出に変わりました。私たちの仕事は人と人とのつながりがあるからこそだと思えます。すばらしい上司、先輩、後輩方にいろいろな事を教えていただき、経験させてもらい自分の力を存分に発揮できる職場に巡り会えたことは、私にとって最高の幸せであると感じを新たにしております。しばらくは体を休め第二の人生の計画を立てたいと思います。どうか皆さんもお元気で活躍ください。



退職者 社令 社交 付式 退

平成26年度 人事異動



婦人保護施設
うるま婦人寮
寮長 上間 久規(新規)

障害者支援施設
北嶺学園



園長 金城 茂(新規)

児童養護施設
張水学園



副園長 砂川 繁信(昇任・八重山厚生園生活支援課長)

養護・特別養護老人ホーム
八重山厚生園



管理課長 金城 毅(新規)



生活支援課長 仲里 光江(昇任・八重山厚生園介護支援専門員)

施設だより

生年祝い

養護・特別養護老人ホーム
名護厚生園
介護員 伊藤 生久子



2月21日、生年祝いを行いました。生年祝いは12年毎に巡ってくる厄年に火の神や仏壇に安全を祈願するもので、今年は6名の方が対象でした。区長や家族会からお祝いの言葉や記念品を受け、御家族や婦人会の歌や踊りを楽しみ、最後には出席者全員での力チャーターで盛り上がりました。御家族、地域の方々と交流を深める良い機会となりました。元気にトーカー・カジマヤーを迎えてもらいたいです。

開園記念行事を終えて

児童養護施設派水学園
保育士 荷川取 律子



3月27日に派水学園開園42年の記念行事を開催しました。当初計画では、児童が日頃通学路としている道路の清掃活動を計画していましたが、当日は悪天候により計画を変更し東小学校体育館においてミニ運動会を行いました。友利園長の挨拶より学園の歴史についての話しもありました。その後、パン食い競争や児童と職員によるリレーで盛り上がり、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。今後も伝統ある施設として地域へ溶け込む施設としていけるよう、努めていきたいと思えます。

作品展・即売会を開催して

救護施設いしみね救護園
介護員 高原 英子



2月20日、当園中庭にて作品展・即売会が行われました。農園芸・手工芸・陶芸と各クラブに分かれ、利用者と担当職員が一緒に販売を行い、日頃の成果を披露しました。また、訓練棟では健康相談・栄養相談、フードモデルの展示、施設紹介のスライドショーの上映、豆腐餅入りぜんざいを振る舞うなど地域住民との交流を図りました。前日の雨で足下の悪い中、沢山の方々に来ていただき施設を知ってもらう良い機会となりました。

新年会・生年祝い

障害者支援施設都屋の里
介護員 新垣 美由紀



1月15日に都屋の里の新年会・生年祝いが行われました。今年の生年祝いでは還暦を迎えた方が2名おり、お礼の言葉で皆様にお祝いをしていたいただき、大変嬉しいと話され、とても喜んでおられました。余興では地域のボランティアによる創作ダンスを見たり、利用者と職員も一緒になって音楽に合わせながら全身を使った体操を行って楽しく過ごしました。今年も思い出に残る新年会・生年祝いになりました。